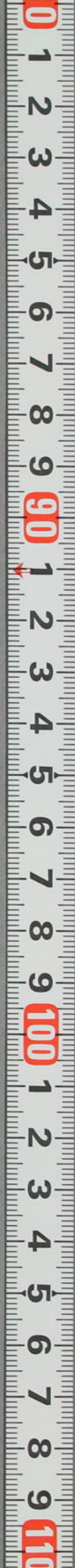


戲作者小傳

魚	國	
一	百	二
冊	五	類
	八	
	番	

~ 13  
4109









門へ 13  
號 4109  
卷



戲作者小傳出書



是の小傳ハ或人小借りえたり戲作者撰集の  
 其撰集ハ誰會られり此撰風と視るも吾も等し  
 所為りやありむ將寫傳一人の書僻けむ誤り字脱たる  
 字をい更り詞不調り一事の前後み成れと素事實を  
 主として書り在る文をる歌物語りぞの類らずと假字天爾  
 遠波の違有る皆悉く合寫たるを一日朋友某と見せりハ  
 裁り愛て是のいをせよ弘く將為と云ふ評諾と答つてハ  
 一度勸いし請り是より原書の儘めてはくさりのをちを  
 あつた之と云ふ俗語の如くは人笑つてむやうか



眞寔ならん如是物あると若撰者の見ゆふ悦ぶを歡し  
思へば然る撰集の檢多し採好い寡く悪が多し且他  
合爲て自作し行て虚名を揚り有る彼是者へけれ物に  
名立る人傑し思ふ習俗を耳を貴ふ世人未諾又撰者  
猿所爲とや云へうむ然先く武亭主人が所著臆説  
年代記に見えたる和祥。龜遊。益信中古を自。支阿中古を自  
其餘撰集に載在り傳記白濁るる詞あり略つ且題号の  
撰集の名目不相應し私小傳と改たりま事む  
安政三年十二月下旬是か前書とて記るハ吾弟子活東子と  
云ふ書農る。渠が云言の随意彼に代りて題を此在處の

木ホキ  
大城の東を四日市場の於小店珍書販

無物老人覚  
花月屋三世  
櫻井蛙齋

一巻 撰集 卷一 花月屋三世  
一巻 撰集 卷二 花月屋三世  
一巻 撰集 卷三 花月屋三世  
一巻 撰集 卷四 花月屋三世  
一巻 撰集 卷五 花月屋三世  
一巻 撰集 卷六 花月屋三世  
一巻 撰集 卷七 花月屋三世  
一巻 撰集 卷八 花月屋三世  
一巻 撰集 卷九 花月屋三世  
一巻 撰集 卷十 花月屋三世  
一巻 撰集 卷十一 花月屋三世  
一巻 撰集 卷十二 花月屋三世  
一巻 撰集 卷十三 花月屋三世  
一巻 撰集 卷十四 花月屋三世  
一巻 撰集 卷十五 花月屋三世  
一巻 撰集 卷十六 花月屋三世  
一巻 撰集 卷十七 花月屋三世  
一巻 撰集 卷十八 花月屋三世  
一巻 撰集 卷十九 花月屋三世  
一巻 撰集 卷二十 花月屋三世











○風来山人

名國倫字士彛鳩溪号一紙寫中又天竺老人と戲号す  
通称と平賀源内といふ初の森羅雜萬家といひ分毫其号を  
つゝ東海中良<sup>布杖</sup>為<sup>袴</sup>子<sup>海濱</sup>又院<sup>ビヤウリホシ</sup>布<sup>福内</sup>界<sup>外</sup>の名<sup>号</sup>、<sup>知</sup>信<sup>の</sup>人  
ありて梅庵の字と好みゆ戸<sup>カ</sup>母<sup>リ</sup>して古醫田村元雄と<sup>呼</sup>ぶ<sup>事</sup>、<sup>字</sup>の  
出<sup>藍</sup>の<sup>巻</sup>れ<sup>る</sup>、<sup>上</sup>火<sup>院</sup>名<sup>を</sup>號<sup>し</sup>、<sup>モ</sup>キ<sup>テ</sup>ル<sup>と</sup>造<sup>り</sup>、<sup>風</sup>砲<sup>風</sup>船  
あり、<sup>信</sup>、<sup>情</sup>、<sup>好</sup>、<sup>り</sup>、<sup>の</sup>、<sup>多</sup>、<sup>多</sup>、<sup>也</sup>、<sup>裁</sup>、<sup>化</sup>、<sup>た</sup>、<sup>一</sup>、<sup>時</sup>、<sup>の</sup>、<sup>戲</sup>、<sup>と</sup>、<sup>ら</sup>、<sup>る</sup>  
と<sup>も</sup>、<sup>あ</sup>、<sup>り</sup>、<sup>た</sup>、<sup>り</sup>、<sup>言</sup>、<sup>年</sup>、<sup>十</sup>、<sup>百</sup>、<sup>十</sup>、<sup>八</sup>、<sup>送</sup>、<sup>す</sup>、<sup>ら</sup>、<sup>る</sup>、<sup>橋</sup>、<sup>崎</sup>、<sup>の</sup>、<sup>總</sup>、<sup>承</sup>、<sup>寺</sup>、<sup>と</sup>  
墓<sup>前</sup>、<sup>友</sup>、<sup>人</sup>、<sup>杉</sup>、<sup>田</sup>、<sup>元</sup>、<sup>伯</sup>、<sup>達</sup>、<sup>之</sup>  
法号 智見靈雄

著述

風来六部集

根<sup>る</sup>、<sup>草</sup>

同後編

志道軒傳

菩提樹辨

仙術集の末

蛇腹青大通

飛花落葉

男色  
細見茶の園

七解略す

院著述

神靈矢口液

荒魂新田神徳

多勢智勇湊

忠臣のつは笑記

前太平古跡鑑

源氏大草紙

嫩葉相生源氏

実生源氏全接

長枕褥合戦

續三合記



○ 徳川春町

姓源貞祐通称を倉橋春平といふ程歌と好みくそ名を河上房  
又春平と号す或作徳川春町と名の隨四小島原の島に  
小島春日町に邸あり徳川といふを信守り地名より繪と鳥山  
石燕の字ひて自画作の冊子多し他の冊子も画けり一説に徳川  
春章の字ありいふ事には春平の著述に金瓶先生室花夢三冊  
邯鄲の趣向大あり凡そ中年「高慢齋行脚日記」是又大南あり  
宝曆の草双紙の交ありて一夏すも春町の名大島嶋寛政  
元己酉年七月七日に江戸に宿留裏通し淨覺寺大寺の  
檀阿小斎  
とある墓あり 法名寂靜院廓譽湛水

墓の左傍辭世の語あり曰 生涯苦楽四十六年即今脱却浩然歸天。

著述釋名物 ○花鳥やん人坊文軒先生此書自隨居先生の  
傳擬し

○三外増辨のとり ○鼻峯高慢男 ○三幅對紫曾我

○間違曲輪遊 ○芋太郎日記あり

○詞戦ありの根鯛の味僧が四方の赤太木の切口左の根と  
わたりよと合を或他り

○夷大皇若氣誤 ○酒天宝易占卷中を以て名し辨辨の  
あり多ありて卷二あり

は餘の畧す

釋史ありの  
金にせん世をいふの由の  
うらまゝをいふやれ  
とらみよまんぬい  
せんがういひまそが  
おののうらまゝをいふ  
くすのうらまゝをいふ  
あつむ之ーを三三三  
まのうらまゝをいふ  
古三馬 膽記年代記  
うらまゝの御書  
活東子記

又洒落あり

無頼通説法法をいふ  
南中書あり

男女風俗通男女の衣冠小道具の風俗  
画傳あり

新入



芝全交

通称山本屋平治と云ふ大徳流の狂言師也西久保津谷町三住居す  
寛政五癸丑年 痛て没す約年

戯化よりしてなるもの多し其中あり能く女名はハ

御料理 御知而大悲千録本二冊物事 倉羽大佛縁起一紙半

是書に戯名大書す云の元年丑年と潤化先

。烟競着麦屋之新。南無大通佛潤帳。通一色女暫

是未初作ると

釋史南カ  
大徳のちらん  
女はの誠まははく女名  
とふのとせめり  
大徳のちらん  
かえんす仁徳ん  
十ははのちらん  
右野載臆陰集記  
鈔録

○喜三二

秋田侯の正通称平治年格と云ふ明誠也号す戯名喜三二又  
龜人といふ狂歌ふりおのり名持の名有り詠諧より成狂言師也  
と云ふ天壽と云ふ晩年は名持と刺取とて後若る人なり  
一と戯言て自ら平治と名持と喜三二の稱号と若菜字と云  
海らの文化年奏る也日平治と没す約年七十九浪川浄心寺墓あり

著述 古板木 喜阿画 静寂坊下子 諸君の喜をかりし

釋史南カ  
三話語らるるのち  
よりとせんけしや  
のちのちのちのち  
うそをのちのちのち  
ろふらみみり  
女名通五名也  
是く隠没年代なり  
載り也



○萬象

姓中系名許氏字虞臣号桂林初称森嶋南高と在江川浦周  
法眼の舎弟也と記し年一十稗史の化ち、平賀原也の一人  
一と東羅万象の号と諱り、又三信風集の一人号し三竺老人  
と号す程名と竹林<sup>スガノ</sup>居士と号す字の甚多の甚多<sup>ヤハ</sup>已<sup>ヤハ</sup>少<sup>ヤハ</sup>多<sup>ヤハ</sup>と  
載はるす甚多巧子あり、一河の風集の伯仲せり

著述

四唐芝居<sup>少和一冊</sup>  
四仙也

古平集巻<sup>同上</sup>

稗史あり  
それらより  
是れ傳年代記  
也

○唐本三和

如原氏伊三<sup>三</sup>号す、在不知丹河の地流し、和歌集傳  
傳す、或人云、或人云、一、半傳、若原重三、一、才、白、ら、り、  
傳、之、今、一、ら、一、没、年、ま、知、油、川、傳、は、ら、小、巻、有、り、  
の、昔、地、水、火、風、を、一、く、す、ら、り、一、は、を、五、輪、の、一、ひ、ら、り、  
古世歌

著述

三巻巻部正太助定

忠臣心の蔵

通神  
孔明  
三巻巻部正太助定

和唐珠解  
同上

稗史あり  
その名の振らうある  
田文の如き  
天下面後の抄  
とて文被年代記

活流あり  
歌集傳を  
其の年一十  
の太巻あり







○唐衣橋洲

名茶渡字温之渡温之改し醉巾原号す通称山島原之助  
小石川は尊号町住居守甲の家の子也初め山橋軒名厚町  
物と詩と城一歌と誦す信長方奉る其後初と中長  
一と之と在河の事初二年七月十日没す享保三年 妻坂  
一保守寺の孫。

法号 心眼院開卷得聞居士

著述

若葉集 天明中但欲集二冊  
江戸日恒社集板の地

○朱樂友江

名景貫初名景基字道甫淮南堂と号す通称山崎卿之助と  
以て四谷廿騎舟小住の先子と力也初は漢字五和歌と由は  
淳和の字と海良橋河小次で狂歌を以て名色狂歌を以り  
元文五年十月廿七日、生れ寛政三年十一月廿二日没す妻山  
久保町喜原禪寺に葬る

法号 運光院泰安道文居士

辞世 橋本の心や海島に渡りし月の橋よりの月の

著述

大抵御魂 中四ノ町喜原寺の  
西蔵書(小冊)二冊 ○故混馬鹿集 狂歌集也  
中四二冊



活東子云  
南前名假名世説  
姓立松名慎之  
云々云々  
考と係り

○平秩車作

名嘉徳号東蒙山人通称稻毛屋金鳥と云ふ石川屋新市  
任し烟草と鬻り業す根柢の古老なり寛政元年  
七月七没す年三十九谷善慶寺に葬り  
法号

著述 水のゆく五冊

○六樹園

名雅堂字子相五老号又職術高号す通称石川七郎と云ふ  
狂言高名飯盛守のり小休馬町三月の孫高輝屋吉海  
豊信の男也故りて石谷内庭新市に移住し法雲庵に在り  
中村屋折吉中法雲庵の男也富在り六樹園の号は徒然草に  
馬町三月と云ふ事ありしと云ふ事ありけり  
文政十一年出立し其子京部一守道号免許あり  
折橋大のり之を号と改名す文政十三年三月十日  
病没す享年七十八法華寺に在り池中西光寺カヤ地蔵相院  
其男流橋横基の傍に碑を建て其文曰

活東子云  
南前名假名世説  
姓立松名慎之  
云々云々  
考と係り



著述

飛騨國物語 半紙本五冊

近江縣物語 半紙五冊

通俗排詞錄 英泉畫

志之字の物語 半二

林のよみかゝり 大

木の枝物語 日

あつちのあつち 半二

但文集也

君諱雅望字子相姓石川氏号六樹園又号五老齋名  
 蛾術江戸人君天資聰敏才藻優麗學莫所不窺尤覃  
 思和歌格調俊逸詞彩繁爛一時專門名家皆出於其  
 下風四方贊謁乞業者不可勝數海内推之為一世宗盟焉  
 其所著之書數十種正梓布世如源注餘滴雅言集覽  
 所尤致思也足以觀其洽聞博覽之學筆鋒超倫之文  
 矣文政庚寅閏三月二十四日罹病而卒享年七十葬於淺草  
 正覺寺子院哲相院法諡曰六樹園院墓卷五老居士京師  
 縉紳之家嘗覽君之著書感嘆不措授以宗匠之号叙之  
 法眼没之後 宣文始到于東都識者憾焉嗣子清澄謹

乞余文勒石建之墓門余与君相知者久矣義不可辭也  
 系以銘曰

于嗟于死而朽者形骸不可漸滅者名一世執文騷之柄  
 千載享法眼之榮淺草山々靜地靜以固其瑩

孝子石川清澄謹建

文政十五年庚寅三月二十四日 吉田勇雄識并書

*(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)*



○ 德川好町

紀氏名真顔狂歌堂号一又四方歌垣と号す通称と  
山川志多向といふ歌者屋河津舟住して向之有り  
汁粉餅と瑞と業と一今縁付と堂号の  
向ありと流あり先お慶守初め  
徳川春所、能く釋史と作、向の屋敷にて好町  
号す寛政年中、唐杖といふ署名し、其年の作あり、後  
四方あり、狂歌と号ひ、其屋敷唐杖初告録といふ  
信年、他諸歌の中、具一、大文、約り、因く他諸歌場の  
号あり、又業と号す、一、好屋敷といふ、業あり、段之一、日  
清く、其年の諸歌、好町といふ、其歌、十一年、子、子、日、三、歌、あり

宗通号と免許せん并、折烏帽子着袴と給、文政  
十二年六月六、病、没す、年七十九、三、歌、板  
折末、山と光園寺、の、葬、す。

法号 俳諧歌場壽譽福阿真顔  
辞世 味く喰ひ暖くする何定ナニチサシ七十七、南無阿彌陀佛

著述

元利安賣鑑為 ○其者のより、人

是天竺乙丑年 初刊行

延保尚字之清書 終入 ○金吉印 柳中、し、り、く、新、刊、成、入



本郷川河作

大仕掛三男春我 寛政五年徳大寺板巻由画麻杖  
少とる一て序文ふし家の名号

和歌をい真歌  
の号あり

和歌をい真歌の程歌をい真歌の程歌をい真歌の程  
丁丑年中村彦部と世程と大石歌板「花雪和合吉平記」日  
故坂東三付五中岩井はあきと中 和歌と文化八年未  
当年と七年の官二座の勤なりし知双方の進歩を  
より終に徳徳徳一座の勤なりし大石歌板和合の二字  
か そとむしの浦老翁  
言字の例をいふ 陸くらしきと風をいふ  
とらう飯盛をいふと中 陸くらしきと風をいふ

活毒子曰  
飯盛つてふす  
後合唐ふ吼て実々  
傳り事うら

飯盛の儀をいふはあきと中 和歌と文化八年未  
より終に徳徳徳一座の勤なりし大石歌板和合の二字  
か そとむしの浦老翁  
言字の例をいふ 陸くらしきと風をいふ  
とらう飯盛をいふと中 陸くらしきと風をいふ

生歌

飯盛

孫もいふ中むのち機取二けんふさの層をいふ

5415



紀定丸

初号野原雨耕らるる巨称を吉見俊中しし年土互齋  
也しきふは守恒徳を所ししを居るし、弟双珠の代に  
四年同五年あ年の、二三部あり

○活東ふ常河志中者子しと保年百歌分好も没  
辞世 恒徳向しけりあすしりりけり紀の定ぬしきり  
世

萬唐丸

在多川氏如名柯理号と耕書をいふ巨称を芳原  
重三のといふ初吉末ちのいふ恒して吉原殉身と終る  
海江油所へ稱し書傭らるる人画史よ云寛政九年

己丑月六の年、中宮中しりり山谷正法寺の華、碑文  
ありとる川五老の撰る

著述 在樹志稿海軍集

○雪唐云唐丸の如傳系あり故ふ本やあ、志の多るを、故唐  
のそと、為撰、又右のありし、材の如く、と願ひし、は、是か  
し、の、身、を、り、唐、丸、を、い、ふ、可、く、為、る、を、り、唐、馬、珠、撰、る、  
又、こ、の、名、を、記、し、し、る、可、く、い、ふ、可、く、い、ふ、可、く、い、ふ、可、く、  
は、年、六、月、二、日



黒澤武部

山東系傳中より狂歌を評載作の多し三巻より二巻の末まで  
甚多 人志鬼澤井 三十一方在也

黒木

山崎翁云系傳方小富傳より云々のありし字を系傳の  
片紙のありし多し在道三巻より信州一紙死す云々  
甚多 女社子少傳多し<sup>三の三年</sup>系傳序文出版は二巻の二紙

敏持

蓬萊山と号す言高倉のたむらひに傳はりし  
年貴卿系傳の傳り多し一巻及二巻の年中は五方部り  
ありしは傳り君より載化と禁らるる云々

田螺金魚

神田 町區の子りり  
似紙序之卷より小冊大に伝はるる單及紙の伝はるる  
一巻千金中一冊



窪田信満

尚古堂と号す。あまのり。信守、信忠と南院如法。兼し、信満、信和、信可、信休、信欽とす。し。画をす。し。す。る。る。云。田。向。院。若。橋。若。原。の。事。之。数。作。し。て。存。け。り。惜。し。き。れ。し。と。く。は。其。好。好。り。予。未。見。

楚満人

楚満人 南院笑々号す。通稱、補善、信。し。云。し。楚。字。田。向。所。の。書。持。り。り。新。討。の。事。中。身。し。て。名。を。著。す。文。信。丁。卯。年。三。月。九。日。没。す。西。産。院。先。院。葬。法。号。只。但。受。乐。翁。居士。墨。川。常。生。神。師。の。四。女。信。休。匡。と。素。し。て。仙。白。持。り。り。少。高。高。元。極。水。向。り。り。し。り。し。

其書文相補  
新院殿出屋字

活第中云  
少高の言是なり

振鷺亭

粒、刈成、名、自、店、通、称、を、し、り、り、南、院、の、名、を、し、初、の、信、可、上、任、居、す。画、の、多、居、信、長、と、す。あ、る、信、長、信、原、と、し、川、崎、五、太、河、東、と、橋、居、り。自、物、鑑、南、一、と、書、き、り、り、沈、碑、の、上、堰、と、書、き、り、り、後、す、り、り。其、書、自、物、鑑、天、の、板。○あ、る、一、筆、表、と、す。○書、法、之、と、す。○書、法、我、中、中。見、通、三、洞、中、中。○伊、豆、信、原、信、原、信、原、中、中。○味、雅、話、中、中。千、代、儀、姫、七、変、化、物、話、舟、馬、画、中、中。○春、夏、秋、冬、舟、馬、画、中、中。水、次、好、背、宮、舟、画。○俊、徳、丸、舟、画。○復、讎、猫、股、画、中、中。馬、画、中、中。今、西、行、東、下、り、り。○盛、道、中、金、駒、と、す。○千、社、詣、と、す。○己、日、待、と、す。振、鷺、亭、日、記、と、す。○玉、の、襟、と、す。○格子、戯、語、と、す。



○梅暮里谷我

薛亭ノ号す久留里原の藩士ニ与ル本里郷に在ル直隸反町与ル初ニ其也  
大目付に在ル勤王也

芝承

金花少映五北高画  
文化

山庄吉丈五北斎

傾城買筋道

同編廓之癖

同編宵之程

買中夢之盗汗享和

同編妓情返夢解

契情買言告鳥

同編廓之接

白狐通

甲子救活

貞操小笠雪北高  
卷五

江戸氣質浪花接英泉  
文四五

梅川杜芳

岸田氏能海一ノ言量徳知一ノ芝承の奇任す

芝承

大通記

しらけけふも橋

樹下石上

市中山ノ号す沼洲少形の藩士。一ノ橋東五ノ本ノ文化風

甚酒人ノ好シ海年月出度は一ノを芝承す。子孫を

橋東平島一ノ



〇鬼武

威和集号す初号道徳書時曼卿のいふ或屠者ありと集術不  
正一勢劍小毒す後仕を辨して市井小限凡數化して業す  
画字山石小毒す自ら語ら初底を曉か化して画工任所後  
新書可い物也

里宮川市宮寛平飯田町庄一此化名の旁飯顆山あり

其来

自奉也物語後北馬画大に仍り文化卯年大坂より那羅岐狂を云に  
自らやると古今大南也自奉のほり業一其の若れらと一且  
其夫の二にいふ物也

豊春坊更後中と初那羅岐は解ハ元を初しと云は自奉也物語ハ  
或の若れらと鬼武原則して自奉の若れらとセトト

天城錦北馬画〇函領復讐法二中不〇日観帖初三二二三長喜画

異瘡寐劇種三冊〇三國和漢簿物語話〇嗚呼屋乘棧三古板

慎道迷盡誌同三天春其画〇返咲八重之仇討文化五化傳威和集十改

款打語手躑躅文化元年〇報仇ひさし響數千里床尾止六冊

悟迷惑心之鬼武文化二〇海卷京傳居士談馬鹿山作化元年十五年の初板

〇里宮川市宮寛平飯田町庄一此化名の旁飯顆山あり  
福持身志すはう梅の紋りはうらな心花の二就玉



二代喜三

姓吉原長根若葉亭と号す。初階亭といふ三橋といふ  
狂言と海軍書成らる。若葉亭と号す。若葉亭と号す。若葉亭と号す。  
七世の孫なり。下より三橋橋四世は作らば故より三橋の号なり。銭号  
喜三三の右より右持より譲らる。又喜原月日申し世に二代の  
三橋長三といふ。

竹塚東子

或曰喜三の竹塚の<sup>子位</sup>若葉より文化に生す。其年の由。

高慢至無我鼻心神

毎寛政三年初作。終り小京侍位より自ら名  
狂言。喜三の竹塚の事。喜三の竹塚の事。喜三の竹塚の事。

喜三

喜三の竹塚の事。喜三の竹塚の事。喜三の竹塚の事。

わが竹塚の事。喜三の竹塚の事。喜三の竹塚の事。

喜三の竹塚の事。喜三の竹塚の事。喜三の竹塚の事。

喜三の竹塚の事

喜三の竹塚の事

喜三の竹塚の事

初事名答一文字

初事名答一文字。喜三の竹塚の事。喜三の竹塚の事。

父親現腹鼓前

父親現腹鼓前。喜三の竹塚の事。喜三の竹塚の事。

喜三の竹塚の事

喜三の竹塚の事。喜三の竹塚の事。喜三の竹塚の事。







俱中身也。一為語の初り。五代の白猿及七代白猿  
あり。其末の号は、（？）抄り。之  
或今初の初り。一は、（？）抄り。之

著述 抄子餅者餅在 一 天華阿房来

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

二代目萬象

森羅言又南洲子。号す。初号二代目竹杖。乃種。七珠万宝  
号す。極福徳。仁堂の。云極。回。名。名。町。菓子。尾。尾。保。仁  
卯年七月廿六日没。享年七十一。西。京。中。延。寺。葬。

法号 釋玄運信士

著述

活素子云万象孫也。極氏名晃。一露窓。号す。知名徳。次。一  
以。後。お。徳。一。仁。堂。の。一。重。性。萬。実。温。厚。也。読。書。と。嗜。み  
俗。句。と。好。む。仇。号。と。海。雲。尾。三。雅。と。今。丁。乙。現。存。一。抄。極。回。子  
居。住。一。菓子。鋪。に。号。す。る。



活本云  
江戸名家方角多子  
七海万玉西之住正寄町  
餅屋多可なり相  
尋の

七珠萬寶 万象事次

芝増寺の茶箱厚く餅菓子瓊々たる是後三代自  
森羅万象改名す世の御子故に狂歌師より四方共の  
中子なり

著述

海神箱天の三冊酒上角管卷太平記三冊 通看板 著者兼元上二冊

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

可笑

伊藤氏徳と八ノ御子と三巻卯年六月三日没す行年七十九  
心が右木戸裡性より著す

法号 玄如院要山

雪庵云本戸より右例より口道意法号玄如院要山昭らるる信云  
今の伊藤氏小石川齋通町住持なり

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*



志川町

春町の言葉... 李冠帝と号す著述の書多し

百福物語 少俗 春町長三の町掛合の伝 原長三の町掛合の伝

紫色玉貫

俗稱志川を住居して画とよやうと南の南の氣

類考せり酒海を志川の定を著して延板する

南の氣帰して出板するありて前板大板と

著述 艶沢生日記 見物集

小枝屋

緯山号一又歡醜陳令号す屋稱露本七江次と又摺鈕と  
長下小筆より一水府の沙之殿附し初め山始硝蔵と  
住一及心号志京橋町 信子町三日 少柳

著述 東嫩錦 五北奇画 柳之縁 五北馬 玉房徳 十少奇文化

催馬楽奇談 六奇 小栗外傳 三編 五北奇

古能流系紙 口少伝 景吉郎傳 国直

楊世春 国直 玉西雨話 五美泉



○高井蘭山

名伴寛字思明通称文太為りし芝伊四子は経や一と与力高井  
活の如文也或人云原津旗本某の用人なりしを某述の支那の  
書又有意の物多し又活字の編由りて系双紙合巻に  
化り

三国妖婦傳 十五北馬画  
享和三文記

那智の白糸 五同上

應仁記 二十英泉画  
大牛

孝子嫩物語 五北馬

星月夜顯悔録 十同上  
文徳

水滸傳 二編北奇

自惚山人

橋山町二丁目池田屋久三はとくま姫 姫 屋久三は慶長に海陸  
幸在りし及び海小水一 天文曆字十の四小指 指  
云く法由行りて海路をよせりしと小高島の語

橋本保留

萬葉字又音南橋号を家号に河原より飯田町橋本  
任居りて煙草と藥業に狂歌とくす幾代三郎也



祭和博

鈍之真し号寸百餘武物屋新くしつ神田小折町小住也  
物部河之成云しと板詰りし

其条

御守遊達摩心学

三冊  
岩屋板

福神金大帳三冊

是數心初寛弘十二年  
康平年中の作也

黄金厚丸

神内堀町小住伊勢屋吉多所し紙内也

其条

金再正直

麻布住其条を以て業寸五側符の狂歌師也

其条

金珍指双紙

流石  
美泉画

嫩髮呪物語五  
美泉

狂歌合昔物語  
文保三年書

西来居士佛

尾刈屋中ゆし毛受善壽し之人也初号瓢箪圖寸法河  
し是又五例の狂歌也

其条

忠臣藏合鏡

馬馬板

文政三年書



関西傳災

築地伊豆屋の最古多層の層也通称周平に中より山岳を傳へ  
つゝと

芝居 孝行娘婿骨仇討 六冊巻唐画  
矢野泉市板

復讐猿田ヶ淵 六春翁  
日上

新撰生姜市の始豊廣

運輝長者万燈 二国長画  
文化九

東里山人

九陽亭と号し又鼻山人号す府中三軒名に傳へ  
公は曲筆たり通称を河川浪浪中より山岳の事あり

俗京傳鼻と云ふ山東庵のつ人也

芝居 娼妓  
美談 菊の花 雲雀肝狂志  
中島勘多郎了 翠子

○活来子云吾沙云ある人語に浪浪中曉手漂泊と芝居也  
少くは彼屋のひき奇方少御るを少くは彼屋のひき  
賣りしりし流石にして曝書信あり傳に隣り活計  
七つは海ふは居橋は市のお店に掃くより奇聞と云れは  
千則歌と云ふ事あり



○ 静 廬

名慎言字有和一号栢園より五條北云々よりひくゝ有報壽  
初納被授計金といふ裁号を元本に何ゆゑ譲らば相續と  
よりけり其を廢して字少院と持治より号三三三の  
一人の元年中三月廿九日没す其元法寺地中高文院と稱す  
法号 高岳院圓照信士

○活末子三三三の清持居士云々 号振舟 住湯島 市時居士云々  
有報居士云々也 号迷尼 住并芝橋

壽阿弥

毎年御建初の御事を  
程初り或年のいひ  
十右衛門有主と既  
終り人なりは快  
つうけきハハハハハ  
枕高きといふけり  
といふを三三三  
孫と云ふけり  
俗稱真志屋五江化より神田新石町ニ在信也 眞志屋 法華寺  
他志徳と利敷とて表向の法也 教務狂之也 宝徳寺と云々  
一 律ニ僧 劇神也云 淨るゝ七圓の化也 一 活末元年中 日本  
年平山と云 信長院地中昌林院と云 法号 東陽院壽阿弥院佛曇喬和尚

○活末子嘗聞和尚年七十九よりけり 早暮より「あふんむのちまの  
いのね」を當年 早暮より「けつをん」の街のいのねし 昔より  
傳ふ北山先生のつゝなり











漱川の鼻

其の地は... 漱川の鼻... 其の地は... 漱川の鼻...

其の地

徳後... 本曾義仲... 七小町... 英泉

白頭丸柳魚

狂言... 白頭丸柳魚... 狂言... 白頭丸柳魚...

葛葉山人正二

葛葉山人正二... 男と傳内... 葛葉山人正二...

法名 並木舎葛葉居士

又折柳山本寺境の... 折柳山本寺境の...

其の地... 折柳山本寺境の... 其の地...

其の地... 折柳山本寺境の... 其の地... 折柳山本寺境の...







林石林泉

古本林町に住居す初め林石林泉と申す中世に世に名を著す  
隆平、性恬静の元禄中、上子あり頗る文雅なり書し書き  
狂歌、詠も又高き、養老の一事をよみ天保六年正月  
利敷とて林泉と改し又俗にりて曰名林石林泉と改す隆平を保  
十三三年二月没す

芸述

先河而三外、世界天保元年 国直島 帯石於襟三世伏 天保元年 国直島 西与板  
歌討鶏權多、漸六重四種是校 天保二年 怪談春雛鳥初二天保土直房 三十四日十二国直島

武亭山人

樂亭馬笑 樂亭山人と号す浅草四町七丁目住居す口伝  
世に居るまこと

芸述 手袋早引廓片用 三馬福亭序文あり

古今亭三馬 浅草東仲町三丁目住居す買ひ物三馬福亭序文あり  
後利敷す

一身三子 居る之志

は三六武亭山人と号す

福亭三笑 口伝抄の今より詳なりす

益亭三友 口伝抄に二丁目住居す其志を著すの事あり  
芳町に住居す後利敷

福亭三笑 牛也三居住す口伝の師より其志あり  
仇之字ありくのみ書す天保二年没す

一身三子 居る其志を著す

徳亭三子 浅草川 住居す其志を著す初号とて二丁目  
住居す其志を著す後利敷す其川に住居す七代三子と号す  
口伝を著す其志を著す



長谷を以てくまの木の原を越つた所の地の日年

雪身三冬、片山寺の人下等

匠三市三七、五語橋内西より根元師

春市三曉

春身三曉 三宵 画工国直の兄なり

一身三樂 監修屋唐中より五福石川群作より

三囃 為永春水

十返舎門人

大京市女 享和の文化年官と云々

東寧舎阿 旧年官と云々

東情身二灰

五返舎半九 芝田に在りて、葉子を以て業と云ふ初ハ  
和泉河原の侍より今保川と云ふ所を在り

金鈴舎一宇 男某ハ累年正月のついでに画と云ふも  
侍所仕立にて江戸所云々其也程程と云ふ或  
程云集程程舎半宇云々名々云々人の名と云ふ

九返舎一八 後三市春馬下段に少侍あり

半返舎一朱



愚舎一得 唐三刻

十字真三九 大徳寺所蔵之唐三刻今行方丈志願人九徳寺にて三九の公儀録と云井風物より其時公の唐也

一九後後を男乞ふ二代月十五舎九の敷居を方なり

○牛嶋長命寺境ゆぢふの碑ハ故九の男五九を余の茶  
達しよるなり

○碑銘 なまじりぬたに果るりし曾ふたきたりてを女唐り  
うほいけいふもあゆみの日の終まの故てい色とあり

由換々情慮さきいほふるをそるなりし生一之

碑陰

十五舎一九

應需憲社書

曲亭山人

標亭琴魚

勢別杉屋の人々苦雨にまよふる福西より少福唯月日奇歌よ

つぎに月日後記らふりより又馬琴々苦雨の香紙

後編摺摺葉の三輯と依天保二年卯丑月廿六日享年甲子に

松坂寂光山願澄寺よ并法号 標亭道香

山願標亭琴我

贈京傳先生文。曲亭記。○裁贈利倉屋件衆文。贈上三女

此は傳板りともりく刻るなり



琴川

詠討甚三續 五文五年

直亭 驥德

琴悟 規矩

節亭 琴驢 岡嶋也

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

○ 為永春水

名貞高桂院号一鶴齋補稱す原書賞すて青林寺秋意  
七以江の初め或るの門に入らば号し浪二振擧号す又  
故能満人女乞ひて二有甚満人なり。故ありてそを返し又  
上子年春水とて在如敷多うは初擧可成油町と傳へ又其擧  
厚本寺の擧上岩池と傳ふ擧目て道徳院の号あり竟し擧向多何  
信中以擧書とらひし擧<sup>セラ</sup>舌耕とらる金龍山<sup>唐書</sup>の擧<sup>信</sup>号す  
其書中より行りて又擧て中<sup>或</sup>ありて一<sup>可</sup>好<sup>合</sup>の  
大<sup>公</sup>絶<sup>板</sup>作<sup>年</sup>なり  
重<sup>心</sup>沙<sup>妙</sup>と<sup>り</sup>。擧<sup>了</sup>。擧<sup>了</sup>。

其書ありしもの  
○ 抄ありし  
は外に在りしもの  
なり  
龍音信士



岡山島

名長盛字哲甫号之休之屋又丹前舎のひな孫を島岡芳美田名とて  
神田軒所を居居侍了ひ浪人として約中書所を任大南の卒と  
再々何處も去り初め書所のつへに京路驢のうらむ歌を嗜み  
とて手とりて備書するの多し古く或る文を傳へてつもの

驛路春鈴菜譚 二文化四卯 豊廣宗理

善光寺詣 二貞房堀岡 文四

水中魚論五釣話

江戸名所花替 四丹文堂刊行 雪且画

廿一夜待 三文化戊辰貞貞堀岡

如月初午 三英泉堀岡 文四七

揚弓一面大當利

瀧亭鯉丈

下谷廣徳寺門前福荷丁に住し松を鑑り業を新也その  
三弦よりして其名を龍とて在る轉して清原信法院  
義の一首を傳し再駒形所の存をりて物。世に清原の  
如く一中をりて一都一府に云

花替笑 初海三進加 文四 美泉谷刻

滑稽和合 六 牛嶋土産

江戸の事嘸計 後編 前二馬作也

大山道中栗毛駿馬 初三

伊勢道中三方廣人 六

串錢二日酔 後編 前二九也







鬼卯

栗枝亭号す左海区飯の心草の法也書あり京西尾書  
嫌り孝行や煙をと穢し書きたるの故も表の隠子

世の中の人々多岐のありて煙をりて海をりて

形跡しむ煙を自らりていつけまゝ小成平らに書きたるは  
昔は狂歌と云はれりては煙をりては事起る君りて煙のみ成り

と云はれりて一柳亭月をりて人々をりて一柳亭と云はれり

揚巻亭草貫 今水守

下谷池の煙をりての意つ海向一丸あり

草貫 一子三子の對言きくは此のいふ名草貫の  
揚巻亭の草貫の男也

嘘初者今川

江南亭唐立

通在中の草貫いふ京市街に居りて知らば煙をりて好み故に唐立り書  
一得りて煙をりて唐立の郎ありて又唐立の郎ありて唐立りて

譚淡紫色揚 舟国安画  
ツキ板

忍国常丸

下谷上野所ふ住居して左陸を云はれりて其後唐立故に丸の好の  
浴衣地と年毎に例して新紙と深草

草貫 金成本後著と藤和秋 女史甲申印行  
国直画深草板







三亭春馬

浅草山町三住持寺初の新吉東京町三丁月の始揚り大文字屋平泉  
寺子より今昔と起り留居より。程居か保原浦成り以後  
元成り大文字屋春村より子也又故十五番九のつり九区番八  
いふより一後大文字屋自りより三番十五番九なり。

其述

松竹梅 善氣競 中本元傳年刊行南  
国貞画初三三三三

五柳亭徳升

五柳亭徳升 前町三住持の後本所二月朔初の漢唐の  
紙巻を讀み其多るを我りしり。本居より候本居を活業す  
好ふ人なり本徳よりよみ其年の以軍書讀典出づる舌耕を  
今更家の  
あるは初ハ仇儀者より其の名をうりて其書より一ハ其書の  
名を知りよめ其の年春名を傳せり。近曾其化と  
藤にては市 御魚没工の書候より其書其五年七月廿日  
没す年其年一牛也其伯寺は其葬。

法名 五柳院徳升 日青 輝



○武具、小三馬

本町三丁目住居好三馬之男、一、本傳の製業と高ひて業を、  
俗稱唐神、一、文化元年生れ、文化二年十歳、一、初て甚途  
あり、卷末、或常席、一、記、一、天保元年、一、小三馬、一、改名、  
父の性、一、父、一、父、一、父、一、父、一、父、一、父、一、父、  
事、一、事、一、事、一、事、一、事、一、事、一、事、

甚途

喜怒哀樂堪忍袋 文化十二年  
國書館蔵

眼曆振袖始 山板

花和景吉野物田 同前  
巻末

本朝班猫傳 同前  
重政

仇競意亂地較稍 同前  
重政

○山東京山

出原氏名村字鏡梅藏業堂、号、一、又方生屋、号、一、一、号、一、  
曉山、一、一、初、一、利、一、一、利、一、一、利、一、一、利、一、一、利、一、  
佐、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、  
製業と鑑、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、  
能千、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、

刺髮辞

人、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、  
お、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、  
お、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、  
お、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、

○けむ、一、  
○草、一、  
○書、一、  
○分、一、







岳亭丘山

通称を芥菜と云ふは、穀石と堀川古の書信より中江岳亭  
定周より程欽と定村作の字の画を堤秋菜<sup>住茅</sup>坊町上字の後  
水邊のつふ入又小舟工隠居す初は吉山道と居て後橋町工  
住し今此處より去り

芥菜

程欽奇人傳

水鏡太平記 景画

忠孝氷水川

三自画  
文政六伊豆版

杉亭金水

名定保通称中村保ハハハ備書し初は神田右左衛門と傳へ  
子流の師たり中江浅草寺中江寺に在り後中江町三丁目小  
新道に在り又市川附本店に在り一説はと云ふ

芥菜 中江合巻の部より

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



二世 鳥身鳥馬

通稱嘗次郎と云ふ所より力山寄助と云ふ男也。津川吉房は傳  
子と云ふと七國傳に号せり。義相甲斐駿房伝の七男と云ふ所也。  
頼朝と云ふを伯耆守能く相壽傳永年と云ふは海老樹園  
守心と云ふ蓮華守と云ふは又自能く好きて吉田進風は約年の  
事と云ふと云ふ。文政十三年二月廿日鳥馬と云ふ。又弘化三年三月  
壬辰甲子と云ふ名ありて中村中の傳りとの文化也。

甚述

あせ  
お様 金別傳 二国貞画  
関取名所圖繪 同上

相撲取組圖繪 同上  
葉書一夜附 二国貞  
文政六

懐中鏡山閑 六国貞岩戸  
文政十

忠前之孝記 六国貞西与  
文政十

角力水餅傳 国安森治  
文政十

竹萱素の依法馬繪 六国貞甚吉  
文政十

戦場宿本為現建 六国貞西与  
文政十

活金別傳 前後舟  
前後舟

妖狐天細鳥 六国貞泉一  
天保三

俳優崎人傳前後舟  
前後舟

両顔丸歌櫻 八国安国芳  
天保四

大和藤村之振袖 八国貞  
天保五 森治

返咲雛波裏梅 中国貞  
天保五

芝居細見 三葉草

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '和歌' (Waka).*



雪麻呂

墨川亭と号す高田彦藩中より藤田中右三郎といふ墨川  
月磨の門に入つて書を学ばし後戦後をるるに化風小柳亭といふ

夷福亭宮守

夷福山人号又福亭禄馬と号す今奥平西馬と改む西宮新六  
之の尾村本町二丁目の繪巻屋(文政五年の火災より)と改む  
尾水谷町と移住しあるよりて久松藩に改亭信備書といふ  
又戦後をるるに化風小柳亭といふ

乾坤坊良齋

通称良助神田松田町の飯町屋松澤勘平の男也初め三矢亭  
可栗といふに落書するに「良助」といふは「良齋」書讀に  
るるに今の号を改む

其述 黒雲太の雨数譚 初編三編



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

柳亭山人

○仙果

姓大宅名廣通字子田轍斎と号一又狗山人招祿翁寺の哉

号あり通称と弥古作如名 龜子又高橋弥古作名致翁字 民則号

小有軒呂川 嗜俳諧と云ひて世に尾張は也智郡熱田強よ江一三代

熱田大神宮神領の里に生れ幼少時所謂祠官磯部右近

名政春と号と云ひて素讀を好み長らく離屋ヤノオキナ 名朗字繁甫 通称冷木

常介尾張家儒臣 明倫館教授役とあり和漢の学を研究し又芳蘭主

名春村通称尾張中津川とあり子純と号し和歌をよき四世清原房の号と

と譲り又和歌をよむ高橋中津川の山人也薄衲フシカセと号す







